

令和4事業年度に係る業務の実績に関する 評価結果への対応について

地方独立行政法人法第29条の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学評価委員会による「令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」の対応状況を公表します。

なお、以下に掲げる課題（指摘事項）は、全体評価及び大項目別評価等において課題として指摘されている事項のうち、本学において特に対応が必要であると考えた事項から抽出しています。

■課題（指摘事項）1

課題 (指摘事項)	第4-1 教育に関する目標を達成するための措置 教職課程認定申請（中学・高校「数学」、高校「情報」）に向けての課題は多岐にわたり困難が予想されるが、予定通りのスケジュールで教職課程が実現できるよう、学内はもとより関係諸機関との連携を図りながら作業を進めてほしい。
課題対応	自治体、教育委員会との連携をはじめ、社会福祉協議会などとも連携する必要がある、その体制づくりを開始すべく、準備を進めている。

■課題（指摘事項）2

課題 (指摘事項)	第4-1 教育に関する目標を達成するための措置 年度計画であげられていた外国人留学生の増加を視野に入れた制度作りが多少停滞しているように感じられる。海外の提携先大学の開拓など積極的な取組をすすめ、外国人留学生が当然に在籍している大学を実現していただきたい。
課題対応	外国人留学生の増加への取り組みとして以下の対応を行う。 ・交換留学プログラムの提携校の開拓 ・短期交換留学生の奨学金制度の検討 ・情報学部での私費外国人留学生選抜の実施

■課題（指摘事項） 3

課題 (指摘事項)	第4－1 教育に関する目標を達成するための措置 北近畿地域、福知山市の地元からの志願者・入学者が伸び悩んでいるため、増加に向けた取組みを進められたい。 また地元就職する公立大学生が増加する取組みをあわせて進めてほしい。
課題対応	出張講義の実施や探究活動への助言、ポスター発表等イベントへの協力を行う。今後も志願者確保のための関係強化に努めていく。 実施している地域キャリア実習・インターンシップ実習では、北近畿の事業所からプログラムを提供していただき、学生が北近畿の各事業所を知る機会を提供している。令和5年度は近隣の市や団体と協力し、インターンシップ受入先の拡充を行った。令和6年度は低学年から事業所と触れ合う機会を提供するため、2年生からインターンシップに参加できるように積極的に周知を行う。

■課題（指摘事項） 4

課題 (指摘事項)	第4－2 研究に関する目標を達成するための措置 外部資金の獲得については、大学院を設置した後は研究コストもかかるため、年度ごとに獲得件数・金額など目標を掲げて取り組んでいただきたい。
課題対応	過去の外部資金の獲得実績を確認し、教員のリソースを考慮しながら、獲得件数・金額などの目標を設定できるように検討を行う。

■課題（指摘事項） 5

課題 (指摘事項)	第4－2 研究に関する目標を達成するための措置 京都工芸繊維大学との連携は、開学当初から地域活性化の面から大きな期待が寄せられているものであり、今後、連携の実現に向け検討をすすめられたい。
課題対応	京都工芸繊維大学とのどのような連携が地域活性化に最も有効かという原点に立ち戻り、原案を固めた上で、京都工芸繊維大学との協議の機会を探る。

■課題（指摘事項） 6

課題 (指摘事項)	第4－3 地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置 福知山モデルの具体的な考え方や取組について、そのあり方を第三者にも説明、理解できるようにさらに検討を深めていただきたい。
課題対応	第2期中期目標期間中に教育・研究・社会貢献における「福知山モデル」の実践例を提示するための吟味、検討を行うことを目的に設置した「福知山モデル研究会」を学長の主宰で継続的に開催し、過去の取組みを振り返りつつ理論的検討を重ねていく。

■課題（指摘事項） 7

課題 (指摘事項)	第4－3 地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置 田舎力甲子園をはじめとした地域を舞台とした様々な取組については、今後の地域課題解決も見据えたプロジェクトとしてより充実するよう大学での一層の努力や、この観点からの新たなプロジェクト実施主体への引継ぎもお願いしたい。
課題対応	定着した取り組みをさらに発展させるための実施の枠組みを明確化し、魅力の向上を図る。並行して、プロジェクト支援体制を強化し、地域貢献のための新たなプロジェクトの立ち上げと実施の可能性を高めていく。

■課題（指摘事項） 8

課題 (指摘事項)	第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 教員評価制度は教育・研究・社会貢献など多岐にわたり制度化には課題が多いと考えられるが、着実に取り組みを進めていただきたい。
課題対応	再任審査の評価方法を土台としながら、学内で教員評価規程と運用の案について協議を行っており、今後、学内合意に向けて進めていく。

■課題（指摘事項） 9

課題 (指摘事項)	第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置 寄附金のさらなる確保のための具体的な対応の検討、実施が必要である。
課題対応	寄附金のさらなる確保のために、寄附目的に応じた寄附金の活用方法を具体的に明示する。また、活用方法を特定した寄附金募集を検討するなど自己財源の増強を目指す。

■課題（指摘事項） 10

課題 (指摘事項)	第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置 長期的なキャンパス整備構想は将来の学生が魅力を感じるキャンパスづくりをめざすものであるが、その策定においては資金計画も踏まえた多面的な検討を行い着実に取り組まれない。
課題対応	大学院を含め、学生の福利厚生にも着眼したキャンパス整備構想を進めるため、新しい設備マスタープランの策定に向け情報収集を実施する。これには、長期的な大学運営の視点に沿った形で、（１）現有設備の維持、（２）近隣の土地の取得と積極的な利用、（３）現有施設の運用の再検討とそれに伴う施設更新に関する提案につながる情報を含む。